



中村俊定文庫
文庫 18
301



室居三平
とてしつゝ
とてしつゝ
とてしつゝ



仇治まほしけ

雪兔館

孝超稿



しらあしつゝかを録すれども一しるもあはれ
あしつゝのしつゝのしつゝのしつゝのしつゝのしつゝ
やせりあへてやアやれあはれあはれあはれあはれあはれ
梓乃乃くも人をやまうハあはれと楚人のあを御南く
やの櫃を焼くゝ買ふれのをてゝ次買ふとの先
櫃を喜んで寶とれをてゝ今乃それ滑勢家一ハ
なれこれ櫃をかたぬのゝ櫃をきつゝもくや

されも能く此諸流をきくかこ蕉流の名を
售れも安し沽徳乃作をあつるじ何れハん流
實子隘とあるもそ角の粗豪不剛にして
善くいよくをいふ友子極似りや笑ひきつる
彼蕉流も信するものハ不易なりと常法や
治徳を望み者ハ此論尼曲をきくハん流を望み
る力も七お八作をもよぶや其角も極る者
燕唐江味をもよぶや其角も極る者
燕唐江味をもよぶや其角も極る者

とすれも自他も後乃あやしくおもつる先師還空
老人の能く此をきく自他も下なるなりとす
も令言も亦あつる人のあはれきんりや
くし此のあはれ子うやくそくしうやくきもの
彼にくハきおこし一場のお交なつるや
法流のきくへてみおろし一途に矩況をさ
そて籙乃教をもよぶいふあはれしす
人乃あはれきいめくおろしおのむやよおとさん

とん志う此か我うくハ一によあハ此教子遇こま
精一さうすれまうやまき者ハかの流に注んてま
なくけり此をやすれこれ根を求くまをまや
めまおやへたれもまうきま一の玉をゆるり
あまふも元けくハ象乃あまやまハあうんじ
下こに依祖盤溪淨師著華の吹く草よ
木よ雨よ一の流あまのまう流一あまら此
一途をすまるとのき先まわく一おうんじ

まふく一はれそ同姓者自性なりと還を人も
志れまわくう情の邪ハ次人の出や象乃を戸
むなう一く藤一くつもあうまハあまは荆山乃
璞ハあまあまうまうまうまうまうま
かむ吾凍寒法阿婆塔尾宿乃百一能佳
一く凡務をとり耻はきく握中此明月人を
あまう志むまわくまわくまわくまわく
其温潤に帰するよあまうまわくまわく

の基をありしむけうあううは九いろちう
きうれ反古のうちにいせれ神風彼のきう
ありしれをもるう附合句化よれつう
異たう梨おりのかに梅路ハ滑稽家よおぬく
古今よ独安ちれものきう美を梶よ花き
う志のひはちねて様子謙くと改何い
ちしハきう一序のきういなりきうきう一巻
尺首尾よかいつきうきうきうきうきう

徒よ見えくヤみきいよんおさめあき予うき
桐琢斧斤をもとて一毫をかけばきうハ
か山よ冷水を約し楳林一程なさうき
かきうハきうを毀じ都の柱をちう
各ちうきうのちうきう自性の机譜き
いふちうきうのちうきうきうきう
ちしハ斧斤入道す桐琢加つし只そ楳林
只是玉上

むく起すー又刷毛を志し

桃雲

ヒヤめくくく持病志願

曾夫

月あけてさ陽の味を

也水

著もさひー麻すのあ

井

冷やうに筆を端し

路

上をもるれりや

市

入れしを鼓ハ

田

元くすなをの山を耕す

路

ニラ

蚕す。遊りーまら子乃や

井

子孫よのうりや灯う

市

米概一あつのれ

路

瘡を撫ね宮乃短冊

田

生長きは乳母ハ

井

苜蓿の塵も

路

りし白れ側ハ

井

笑ふハ

田

琴一床く毛刀のようすく振ふ
 香炉一青此殊る短く
 木ハ木を製ちや一似あうすれ
 平家能事よもたうて今判
 月のさしやまを汲く房る人
 萱乃婦のうし不める草まを
 為てしやうえんとあう目にかは
 ちきりくすくちが回れ

路 亭 用 調 中 堂 路
 石 胡 也 用 調 中 堂 路

小信ふくむつ買う餅搗て居
 ち〜牡丹〜大・名の札
 糸をうりきり〜き田のさ持く
 むふあふうもふて角 句
 くれれ戸くよあ終てぬれ急ちり
 未産つやめる。抱丁の菫云
 紋様しやうとよ折こむ窓の月
 ほく破れく差がうけ〜

路 亭 用 調 中 堂 路
 路 亭 用 調 中 堂 路

け又乃る古よなうぬと又つみ
 矣すつる日る故糸の介
 山めらりせらとて糸のささめれ
 雄子れさゆ〜と勃起しあり
 言はうさゆ〜成るかくまひ
 しく〜一人乃きえん
 憂啼りハ還浴し似〜未育まで
 烟のいきれを志さる風蘭
 水 路 中 用 路 皮 幣

出用下ニ感状乃かび掛く居る
 人つあ〜うぬ寝るの蠅
 関所く各尻のす〜ぬ目見下
 ばぬ〜をりや〜古茶し一袋
 拿も〜や〜よ茶〜又〜はり
 登^{モツ}げて抱と仲人あ〜うぬ
 乃才ハおら一のけろとまうをさ
 おいをつ〜め〜ある居回見
 幣 中 路 用 皮 巾 幣

昔よりきく見せぬ月乃新

見を判日ハ坊々ありむ

あゝお櫃はは籠ハ秋さる

旅々居てハちよふなう

又きかむ教をびくして新よき

一月もくくハ花ハうけのぬ

そのまにぬもふなぬとみおろ

度ハおごうも飛くうきめ

用

話

整

路

用

路

常

路

萬くあゝ奉りてをたけり

存らきくくもなる家の振治

サあゝ脚を止めれもさめうりん

同着あゝハ桑 和忍辱

鳥もも起やこなむをまゝに

宿のつゝハ下戸も静か

せのまあり昼乃月何あゝに

香おハ先ひく梅う

用

丈

旭

路

史

整

路

用

嘗て不^レ妻^レ乃^レ有^レハ負^レやふか
 産^レ非^レハの^レる^レ帯^レくくすく
 海^レ川^レや陰^レ園^レ々^レ廻^レつ^レ觸^レてあ^レる
 本^レ曾^レ話^レそ人^レしる^レま^レた^レれ
 能^レ用^レのくろ^レも^レと^レれ^レて初^レし^レる^レ
 ち^レじ^レ子^レ来^レてもま^レた^レてふ^レ
 い^レれ^レ水^レ為^レま^レ乃^レ笑^レま^レし^レり^レて^レ居^レ
 ち^レお^レを^レ信^レす^レ人^レを^レお^レる^レれ

不 産 海 本 能 ち い ち
 妻 非 川 曾 用 じ れ 笑 子 水 信 人
 乃 有 陰 話 人 初 来 為 乃 信 人
 有 負 園 々 廻 觸 話 曾 話 人 初 来 為 乃 信 人

介^レう^レ花^レみ^レ室^レ々^レあ^レけ^レる^レ古^レ碑^レを
 ち^レち^レ乃^レよ^レめ^レり^レら^レよ^レあ^レれ^レ苑^レ井^レ礼
 用^レのあ^レれ^レ庭^レ目^レの^レよ^レう^レ此^レ目^レま^レぬ
 梳^レ拭^レ音^レも^レせ^レま^レい^レ振^レ舞^レ
 ぬ^レす^レみ^レし^レ猫^レ追^レも^レち^レは^レ方^レの^レ月
 教^レ珠^レく^レ糸^レ川^レく^レ尾^レ乃^レ七夕
 鶴^レ頭^レハ^レ川^レま^レし^レ溜^レつ^レき^レ大^レあ^レり^レ
 中^レ夜^レの^レも^レよ^レき^レあ^レる^レ巨^レ丸

介 ち 用 梳 ぬ 教 鶴 中
 花 乃 庭 拭 猫 珠 頭 夜
 室 々 目 音 追 糸 川 尾 乃 七夕 溜 大 丸

好おの齒よ有いぬよのおもーろい
 大工戸うせり建く起のく
 赤の目ハ帯れす性志ういれす
 恙のつるよあつてあつてふ
 まつる来ど紀りをひく志の陰
 野もヤワくうに下着の衣
 使 井 郊 豊 用 兼

吸家菴を仿く

新き春見つげり麦魚 孝超
 昼お孫もくなほ空に蝶く 涼窓
 海の音おぼくつれて来ぬやうよ 柳原
 帯仕あつてあつてあつてく 林水
 組扱へりお孫は月も新理屑 午歩
 鶉言ふあさか不り咲 秋年
 五條あつてつる扇やうり子戸を 南壽
 加ふるは生を看ぬ巡神 家蝶

あちつとふ縁ハ娘乃月よりあうせ

芙蓉

去年うくくくくくくくくくくく

和鳴

麻ねくくくくくくくくくくく

舊枕

社壇のまきまゆけ守く居

冠子

引満り以屏風の松くおのる

楚雲

一匠者くくくくくくくくくく

之楚

一飛子ホロくくくくくくくく

漳河

焼火乃新あゆの月と

白雪

延享五戊辰春

書林

江戸早橋南二丁目

梅村宗五郎

京寺町三條上

井筒屋庄兵衛

八開之内

水口河原の原

養桂堂藏版誂書目録

南北物語

前篇 上下

涼帝

うゝやう

浮葉菴 友言

伊勢のはり

武山

雙龍

涼帝 独吟 意の百韻

涼帝

枯野問答

左

百梅

海乃きれ

李趙

百題集

左

百梅

まのりすこ

全

いせあや白鳥

東武

李趙

はなはく柳拾遺

電洞

物語 餘頁 續之足猿

涼帝 連中

支及林 社中

一寸立

東武

桐原

無林 穂家のやう

左

林水 菫里

江都日本橋通壹丁目

梅村宗五郎

